

# 京橋の印刷

4月5日2000・No.105

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 3552-1855  
FAX 3297-3790  
http://www.kyobashi-shibu.org  
発行人 水野 雅生

## 世紀末とモリスの印刷復興

支部長 水野 雅生

印刷技術が近代工業の進展につれ飛躍的な進歩を遂げ本  
作りが産業化、効率化へと走るなかで、十九世紀末に本の  
美しさを追求する動きが現れた。世紀末芸術がその独特の  
華麗な花を咲かせた時期に、印刷でも世界の印刷史上に残  
る美書が誕生したのである。産業革命によって始まった近  
代工業は、様々な分野に技術の進歩をもたらしていく。印  
刷もその例外ではなく、印刷技術は大きく前進した。印刷  
機と印刷技術が目ざましい進歩を遂げる一方で、本作りも  
近代化の洗礼を受けて産業化の一途をたどっていった。経

済効果が追求され、紙・インクのコストダウンが考えら  
れる中で、本を芸術の域にまで高めようとする人物が現れ  
た。イギリスのウイリアム・モリス（一八三四～九六年）  
である。モリスは社会改良家として詩人、建築家、工芸  
家、画家、書物製作者、と様々な肩書を持ち、そのどれひ  
とつをとつてもなみなみならぬ才能が認められた。書物製  
作者としてのモリスは、一八九一年、ロンドン近郊のハ  
マースミスに名印刷家エメリー・ウォーカーの協力をえ  
て「ケルムスコット・プレス」を設立し五三冊の私家版を  
刊行した。

（ミズノプリンティングミュージアム 館長



「チャーサー著作集」1896年 ハマースミス刊

53点の作品のうち代表作といわれる本書は印刷された世界3大美書の1つに数えられる。本の大きさは大型2つ折判（42.4cm）限定438部、本文はモリスのデザインしたチャーサー・タイプ活字の2段組で赤・墨2色刷り、87個の挿絵はモリスの盟友ラファエル前派の主導者サー・エドワード・バーン＝ジョーンズの苦心作である。

# ネーミング

## 高齢化と老齡化

副支部長 石沢印刷(株) 石沢 勉

最近の商品では、高性能、安価、耐久性だけでは大きな売上げは難しい。この要因と共に、デザイン、名付け(ネーミング)も重要である。我々の印刷に関連するものと考えてみた。

### 「プリントゴッコ」

年賀状印刷器もこのネーミングで売上げもアップした。『ゴッコ』という遊び感覚で年賀状がゾクゾクと簡単に安価で出来る感じがする。これが仮に「年賀状簡便印刷器」とでも名付けていたら、店頭で商品を手にとってみる人も少なく売上も伸びなかつただろう。

### 「カッターナイフ」

我々と同じ印刷所に勤務していた岡田さんは、カミソリで紙を切っていたが、すぐ切れなくなり捨てるのもあぶない。カミソリが折れて手も切る……と4畳半のアパートに帰ってから刃先の交換出来る刃物を試作、試作の毎晩。折る型式の試作が完成した時、岡田商會を創業独立。この商品をカッターナイフとネーミング。

社名も、折る刃↓オルハ↓オルファアと命名。紙関係者を廻って売り込みし、新ネーミングで

売上げも順調。いまや世界各国の特許もとり一〇〇種のカッターがあるとのこと。

有名なネーミングなら

マジック ホッチキス

セロテープ エレクトーン

ウォークマン ポテトチップ

プリントシヨブ など色々ある。

### 「ウォークマン」

当時のソニー井深会長が海外出張の飛行機内で退屈なのでテープレコーダーを持って行きたいが、どうにも大型すぎる。録音装置をはずして再生音だけの小型器を開発する様にとのトップマンの指示。やがて完成して売り出したが録音も出来ないテープレコーダーなどダメだと販売店が売れる気がない。全国1ヶ月で3000台も売れない。会長がイメージを変更させろ!!歩きながら自分の音楽が聞けるので「ウォークマン」を命名指示。若者の口込みでこのウォークマンが若者のファッションとなる。今や250万台も売りソニーの大商品のひとつとなった。

この商品ネーミングではないが、我々の日常

用を最初に作った人は頭がよいのだと思う。

「銀行」「株式」「動物園」などの日本語は福沢諭吉が作った。

「野球」は俳人の正岡子規が野原でしたべー スポールを日本語化した。

最近よく活字を見、耳にする言葉に「高齢化社会」がある。これもよいネーミングの一つと思う。もしこれが最初に「老齡化社会」と名付けて一般に広く使用されたら、何とも暗い社会と感づる。我々の印刷物で老齡者、老齡社会、老人……の字だらけのパンフレットでは日本人はやる気のない老いた人ばかりの社会と思える。しかし「高齢者社会、高齢者」の言葉活字だと、知識、経験が豊かで色々の可能性がある。日本社会の老齡化、何才以上の比率が何%になると心配ばかりの記事だが、高齢者を準高齢者が面倒をみる制度があれば高齢者の就職中も広がるだろう。面倒をみると言っても看護だけでなく色々のサークル活動、話相手活動もある。こんなことを考えるのも「ネーミング」の魔術なのでしようか。

それにしても我々印刷業その内でも印刷機操作者の高齡化傾向はさげられない。印刷業のネーミング(イメージチェンジ)だけでは解決しないのか……。

# 新年臨時総会

## 2月4日

2月4日(金)、午後5時より、銀座ラファイナールにおいて京橋支部平成12年新年臨時総会が開催されました。

当日は、午後4時より部長・監査・地区長会を行った後、総会会場の準備に入り、定刻5時に宇野副支部長の司会により総会が始まりました。

まず、開会のことばは、花崎副支部長が行い、「輝かしい二〇〇〇年を迎え、また21世紀への橋渡しの年という大切な年ですが、我々印刷業



としても、業界にとつて素晴らしい追風を見つけ、いち早くその追風をキャッチ出来るような良い年でありたい。」とのことばで開会となりました。

続いて、水野支部長は、「21世紀に向けて、個々の企業を支援する△組合員のための組合▽、この基本理念に業界環境の変化に十分対応し得る組合事業を行っていききたい。」また、「企業は規模の大小ではなく、明確な個性を持ち、特に我々中小企業はナンバーワンよりオンリーワンの企業を目指し、差別化をなくして勝ち組になる



テーマとして企業理念を構築して行こう。」と挨拶しました。

支部長挨拶の後は、本総会唯一の議事「次期役員推薦委員会経過報告」へと移り、推薦委員長の石澤幸委員長より次のような経過報告がありました。「私たち推薦委員会は、支部規約第12条により、昨年の通常総会において顧問・相談役から8名、執行部から3名計11名が推薦委員会に選任されました。11月6日に第1回の推薦委員会を開催いたしました。次期支部長候補者に湊地区、松川印刷株式会社社長、松川昭義さんを満場一致をもちまして推薦し、松川さんからは内諾を得ております。また、副支部長・監査につきましては、支部規約第11条によりまして副支部長・監査は推薦委員会の推薦及び次期支部長の推薦により通常総会において選出するという規約がありますので松川次期支部長の推薦、ご要望、また当支部には九つの地区がありますので各地区の要望を踏まえて通常総会までに推薦をしたいと思っております。」と報告があり、大きな拍手でこれを承認しました。

この後、次期支部長候補として推薦されました松川昭義氏が壇上にて、「本日は正式に支部長候補ということで、石澤委員長よりご紹介いただきましたが、推薦を受けるにあたり水野支部長をはじめ、多くの諸先輩方に励ましの言葉と温かいご助言を頂戴いたしました。特に地元湊地区の組合員の皆様からは、大変心強い後押しをされて今日こうして推薦をお受けすることになりました。5月の正式な発足に向かい、

組合員の皆様方の尚一層のご協力をいただき無事に新執行部の発足に向けていきたいと考えています。」と挨拶を行い、議事は終了しました。

次に、来賓紹介では荒川龍治東印工組常務理事、十文字康雄東印工組常務理事、矢田美英中央区長、小葉忠昭中央区工団連会長、田島一彌東印工厚生年金基金理事長、中條好司東印工組日本橋支部長、斎藤裕文中央区商工課長、岸田俊辰東製工組京橋支部長、川崎哲雄中央厚生事業協組理事長の各氏が紹介され、続いての来賓挨拶は荒川龍治東印工組常務理事、矢田美英中央区長、小葉忠昭中央区工団連会長、田島一彌東印工厚生年金基金理事長、中條好司東印工組



日本橋支部長の方々が挨拶をされました。

新年臨時総会最後は西山副支部長が閉会のことばを、「二〇〇〇年という節目の年を迎え、我が京橋支部も尚一層一致協力して頑張っていきたいと思っておりますので、ご来賓の皆様、今までと変わりなくご支援ご鞭撻をいただきませうようお願いいたします。」と述べ総会は終了となりました。

引続いての新年宴会は関連業界から37社47名の方々が加わり、松岡副支部長と西山副支部長が司会、進行をつとめ、先ず、水野支部長が挨拶を述べ、関連業界代表挨拶は東製工組京橋支部長の岸田俊辰氏が挨拶をされました。年頭の



乾杯は鏡開きの後、支部顧問の小山英美氏により、この総会で次期支部長候補として承認のあった松川義昭氏と水野現支部長を壇上に上げられ、バトンタッチの握手を行い、声高らかに音頭をとられ、一同これに和して乾杯しました。

この後は、恒例の関連業界の方々による自己紹介、自社PRがあり歓談へと移りました。

宴たけなわの内に予定の時刻となり、中締めは十文字康雄東印工組常務理事により行われ、ミレニアム二〇〇〇の新年宴会はお開きとなりました。

## 顧問・相談役・参与の会

12月7日(火)17時より、銀座ラフィナートにて顧問・相談役・参与の会が開かれました。

会は宇野副支部長の司会により始まり、まづ水野支部長が、「先の支部次期役員選考委員会に於いて次期支部長候補として湊地区松川印刷(株)社長の松川昭義さんが満場一致で内定され年明の新年臨時総会に提議されることになりました。」との報告を行いました。更に「水野執行部の任期も余すところあと数ヶ月となっているが、この残された期間中に組合員の増強に力を注いで行きますので、本日お集りの皆様方のお力添えをお願いいたします。」との挨拶がありました。

続いて、顧問・相談役・参与を代表して小葉顧問が、「水野執行部発足から一年半経過したこれまでの執行部の労を労いました。

また、会長職を務める『工団連』では、ハイテク技能センターがいよいよ現実化の目安がついてきていることに伴い、区の地場産業として一番大きな団体である東印工組京橋支部の協力をお願いするとともに、支部財政としても行政の支援を受け、そちらの方へ肩代りしてもらおうというような道筋を付けて行きたい。」との挨拶がありました。

これに続いて、花崎副支部長よりハイテク技能センター設立のこれまでの経過報告が次のよ

うになされました。「ハイテク技能センターは旧京華小学校の跡地校舎を利用して、主にコンピュータ設備、研修所、会議室その他を計画されており、一つは異業種交流による工団連の活性化、もう一つが印刷関連業が中心となる地場産業の活性化によるニューメディア産業の育成をサポートすることです。運営企画委員会の設置が平成11年3月11日、各団体より1名以上の推薦により合計18名をもって発足し、第1回目の会合は施設予定地の現地状況確認を行い、委員会としていくつかの要望をいたしました。

その後、互選により運営委員会委員長に原田副会長が就任され、基本方針に『マルチメディア時代のウエーブに乗り、次代の新産業開発を視野に入れた研究・実験機能を共有しよう』、『情報共有と情報を活用する人材の育成』という新たな目的が確認されました。

また、アンケート調査を行い、施設利用規模等を分析した結果、大方、団体支部においては役員会、研修会等の利用が多い点が確認されています。このほかコンピュータのネットワークに関しては、N T Tからの提案を委員会で吟味している等、今後のハイテク技能センターの方向性をより充実したものにするため、ほぼ月一回の会合を行っております。」との報告がありました。

この後、斎藤顧問の乾杯の音頭に唱和して杯を上げ、会食をとりながらの歓談へと移りました。

歓談の半ばからは、ハイテク技能センターの話題で一色となり、とりわけセンター設立により支部室の移転の是非についてご出席の方々から意見が出され、大方は「支部財政面、また今後の支部事業活動面から前向きに対処することには吝かでない」との意見が圧倒的に多く出ておりました。

定刻を若干オーバーしたところで小山顧問による中締めとなり、一九〇〇年台最後の月の思いと、迎えるミレニアム二〇〇〇への期待をこめて△3本締め▽を行いました。

最後は、宇野副支部長が閉会の挨拶で、「本日は大先輩方の貴重なお話しをいただき有難うございました。京橋支部も二〇〇〇年、21世紀に向けて大きく羽ばたかなくてはいけないな、というような今日の会議の趣旨だと思えます。」と述べお開きとなりました。



# 東京都印刷工業組合

## 設立50周年・記念式典と新春のつどい開催

1月18日(火)午後4時より、ホテルオークラにて組合設立50周年記念式典と新春のつどいが開催されました。

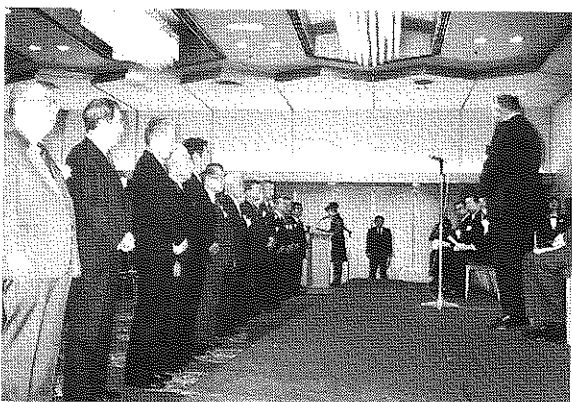
記念式典は400人が参加し、滝澤副理事長の開催挨拶が始まり、全員で物故者への黙祷を捧げた後、印刷産業人綱領を唱和しました。

中村理事長挨拶は「古くして新しきもののみ永遠不滅」の格言を出され、「基盤をしっかりとした上で新しいものを築き上げるときこそ永遠不滅につながる」また、「共創ネットワークで

新世紀に向けチャレンジしていきたい」と挨拶されました。

続いて、表彰式では東京都知事感謝状(理事歴15年以上)に(本役員部門)で20人、京橋支部からは田島一彌氏(株久栄社)、小山英美氏(高千穂印刷株)、久保田幸一郎氏(シンコー株)の3氏が受章され、(従業員部門)では27人、京橋支部からは5人の方が表彰されました。

このほか、東京都労働経済局長感謝状、理事歴10年以上、組合功労特別表彰(役員歴20年以



上)に、組合貢献特別表彰、支部長歴10年以上の表彰があり、式典は盛副理事長の閉会の挨拶で終了となりました。

場所を移しての組合設立50周年記念、新春のつどいには1100人、京橋支部68人が参加し新年を寿ぎました。

### 京橋支部・日本橋支部合同

## 「DTP積算体系及び受発者間ルール」研修会

当研修会は2月15日(火)午後6時より、労働スクエア東京・6階会議室に於いて開催しました。

研修会には京橋支部より113名、日本橋支部より51名の参加者がありました。

#### (研修内容)

##### 第1部

「DTP印刷積算体系」解説 2時間

講師(経済調査会)

産業料金調査室

使用テキスト(積算資料印刷料金

ダイジェスト版)

田村 聡氏

##### 第2部

「受発注者間のためのDTP制作ルール

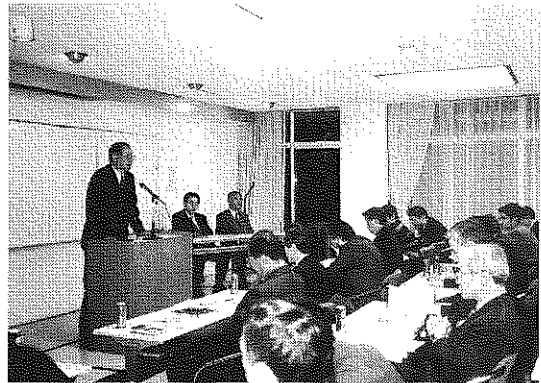
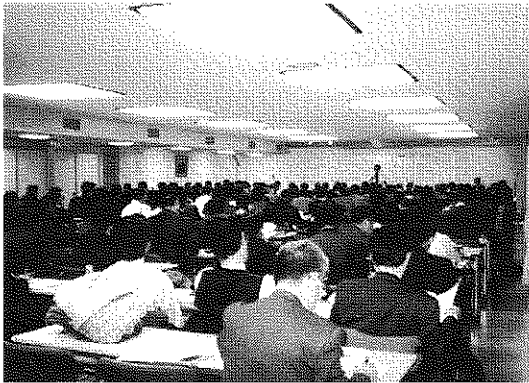
ガイド」解説 約2時間

講師(東印工組・常務理事)

事務用印刷委員長 荒川 龍治氏

使用テキスト(「DTP制作

ルールガイド」



研修会風景

## 「E・ビジネス対応の印刷」 勉強会開催 3月24日

(於・ミスノプリテック)

近年インターネットに代表されている、IT(情報技術)の発達はこれまでの信頼関係による商取引のありかたが「Eコマース」と呼ばれている電子的なものに少しづつ置き換わってきています。情報産業である印刷業においても例外ではないことが容易に想像ができます。そこで今回業界に先駆けて「HABU@NET」名刺受注システムを構築され活躍されている、羽生社長および同社スタッフをお招きした勉強会が開催され支部組合員多数の参加があり、皆さんの興味の深さを感じました。

### 一、システムの概要

ここで今回のテーマであるネット上での名刺受注システムの概要を、以下に説明したいと思えます。

予め契約をいただいた企業の社員がその企業専用の名刺発注ホームページ「HABU@NET」にアクセスし、本人確認後名刺データを入力(以前に発注をしていれば修正)します。発注者にはそこで簡単な体裁確認後データが仮登録されます。次に発注者の上司が発注承認をネットワーク上で行い印刷会社への正式発注を行います。



印刷会社ではネット経由で集積されたデータを、自動組版後に面付けしCTPを出力します。この段階での校正作業はありません(あくまで入力した本人の責任です)。次に予めロゴ等印刷済の台紙にオフセット印刷を行い、製本加工後納品となります。納品の形態としては、得意先の指定の配送センターへの直接納入や宅配便による地方発送がほとんどだそうです。

更に納品受領確認もネットワーク上で行い、規定日数を過ぎても受領確認がない場合、発注者に連絡、原因調査に入るシステムとなっています。得意先との確認作業は、受注から納品にいたるまで、ネットを利用してもしっかりで信頼のあるものに仕上がっていると感心いたしました。

現在の提携先は、IBMを始め大手企業が中心となっています。またこれから導入を検討している企業でも意外と社内のインフラが整理されていない場合が多く、名刺以外の印刷物取引や中・小規模の得意先への対応を含めビジネスチャンスはこれからが本番になると考えられます。

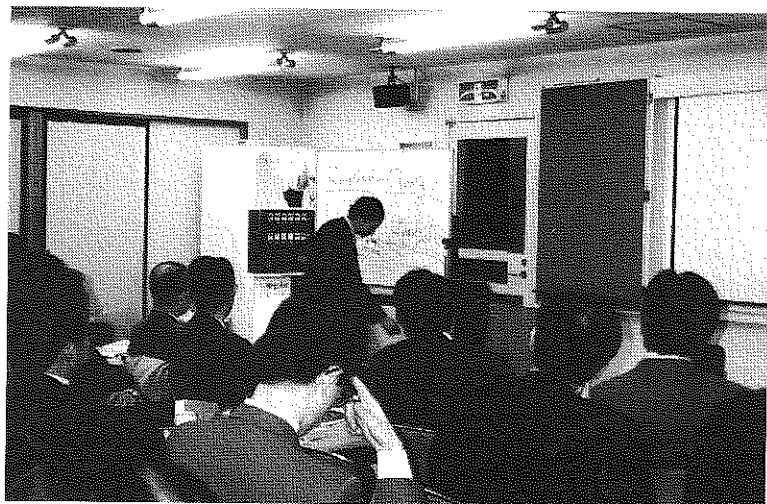
二、これからの課題

印刷の受発注がネット上で行われる場合、印刷業者が直接クライアントと取引をする今回のケースだけでなく、Eコマース業者と呼ばれる仲介業者が印刷会社とクライアントの間を取り持つビジネスが既に始まりつつあります。これは適切な品質と価格での取引をネット上で成立させてくれるものです。この場合発注者側も、受注側も複数の取引先とのビジネスチャンスが大きく広がり、顧客サービスの人件費も削減できるメリットがあります。しかし反面今以上の合理化と各社の独自性が求められることでしょう。同じ得意先との長い間のお取り引きで、信頼と利益を得ている我々にとって一回の取引で確実に利益を確保できるシステムに変えていかなければ、ネット上の印刷業社は生き残っていきません。次回は同じ得意先から仕事が指名されるとは限らないからです。更にEコマース業者には手数料を払わなければなりません。

我々が日常行なっているFace to Faceの営業がなくなるとは思いませんが、身近なところEビジネスが加速的に進んでいく

とは確実だと思えます。これからのネット利用の取引でも、印刷業界は今までのように時代の変化に順応してきた柔軟性を武器に、得意先・Eコマース業者等と対等にそして協力し合いお互いが利益を共用できる強い業界に変身できるように努力していきたいものです。

(永井印刷工業(株)情報技術部・永井 博)



地区だより

「築地地区旅行記」

春原記

十月に入っても日中は汗ばむ程の陽気が続いていた。東京駅地下街で軽い昼食をとることにした。中華飯店でラーメンを食べたが、暑くて汗びっしょりとなりいささか閉口した。今回は東北方面へ出かけるとあって、背広の下に長袖シャツを着て来たが、半袖の方が良かったと後悔した。

午後一時、東北新幹線で東京駅を発って、三時頃福島駅に到着した。そこでわが築地村の十人のメンバーはそれぞれ三台のタクシーに分乗、住所をたどって工場見学地へ向った。

福島市内を西へ、会津若松方面へ向う国道115号線を行くこと十数分、国道をそれて、住宅地域の狭い道路を少し行くと、閑静な街並みの一角に、目指すキング印刷の社屋があった。

二階の会議室へ通され、ひとまず落ついたところで、社長と専務がにこやかに現れた。

キング印刷株式会社は

創立 昭和三十三年

設立 昭和五十四年

資本金 二五六〇万円

代表取締役 伊東靖浩氏

従業員数 八十五名

本社工場土地 約五〇〇〇平米



となつてゐる。

伊東社長は、うちより大きい印刷会社はこの福島に二つ三つあります、こんな田舎の印刷屋へ見学に来られ恐縮です、と穏かに話されていたが、その物腰、不敵な面魂を拝顔させていただと、只者ではないぞとの感じがした。数々の苦難を乗り越えて来た、自信に満ちた経営者であり、常に挑戦の気概を忘れぬ勇者と見た。

息子の専務が話を進め、キング印刷の沿革から現在の経営戦略に至るまで、約二十分程、澁みなく雄弁に語った。要約すると

① 福島県は、山脈や地形の関係で、浜通り(太平洋側)、中通り(県中心部)、会津地方、と三つの地域に明確に分かれそれぞれの特色を出している。福島市は中通りにあるが、県庁所在地とは云うものの産業の中心は、むしろ郡山市にある。

② 東北方面の印刷業界では、我が社がDTPの導入が一番早いと思つてゐる。約十年前からいわゆるデジタル化の研究を開始、福島国体が開催された年には、DTPを活用してのデザインが成功して、各種パンフレット等、公官庁の発注の大部分を受注することが出来た。

③ 社長の父は、千葉県出身でいわばこの地では余所者扱いでそれなりに苦労が多かったが、タイプ印刷から始まって、負けん気と努力を重ねた甲斐あつてか、何とか一人前の印刷会社に成長することが出来た。

④ そこで息子の後継者として、縁あつてコンピュータの研究を続け、所謂、DTP研究

で培つたハイクオリティのデジタルに加工技術をベースに、ビデオのデジタル編集、三次元CGアニメーション、CD-ROM等の電子出版等をてがけている。

⑤ 我が社の営業部は印刷物の受注のみならず、コマーションビデオを中心として、広告代理店のような営業活動も積極的に展開している。利益の出るものは何でもやろうと云う姿勢で印刷業の枠にとらわれない活動をしている。いわゆるノルマとか上からの規制は一切無く、社員全員が自分の使命と責任に基づいて、自由な気風を大切にしている。

お蔭様で、創立以今日まで赤字の年は一回もありません。

最後に社長からも一言、マルチメディアの時代と云われ、インターネットブームや、パーソナルコンピュータが普及して来ているが、我が社が印刷会社であることには変わりなく、印刷機をまわすことが基本であると思う。

さて工場内の見学に移り、マルチメディア事業部のビデオ製作室、階下に降りて印刷事業部門の編集室、製版室と続く。この製版室では版下とかフィルム of の保管は全くないと云う。全てCDやMO of のデータでの保管となつてゐる。

広い平面的な印刷工場には、菊全4色機からA4軽オフ印刷機まで、大小様々な印刷機が数多く並べられていた。工場の一角に年賀状の製作室があり、昨年は約十一万点の年賀ハガキをこなしたと云う。これには全社員が取組み、色々

と苦労も多いが、それなりに高収益を産み出しているようだ。この年賀状印刷への取組みは一つの目玉事業であり、本当に人知れぬ御苦労があると伺つたが、一定の高収益をあげられると云うことは、何とも羨ましい限りである。

時計は五時を大きく廻っていた。見学会は終りである。丁寧に御礼申し上げ屋外へ出る、もう夜の帷が降りかかっていた。毎年見学地で記念撮影をすることになっていたのに、外気の暗黒に急立てられてか、又丁度タクシーが来ていた為か、カメラを取出すことはすっかり忘れてその場を後にしてしまつた。

夕暗に暮れゆく国道をタクシーはひた走る。遠くに見えた山々が近づいて来るようだ。十数分ほどで土湯温泉郷へ着いた。ともかくも宿泊地の温泉の湯煙りを目にすれば、この上ない安堵の気持ちが全身を包むような気がする。一行は二組に別れそれぞれの部屋へ落ちつく。部屋に入つて荷物を置き、どっこいしょと座蒲団の上胡坐をか。窓の向うを眺めればこだかい山があり、その下方には川が大きく蛇行して流れている。北の空には山々が綿々と連なり夜空に稜線がくつきりと走る。

観光案内のパンフレットを読むと、

『この地に二つの秀峰あり、吾妻山と安達太良山である。土湯はこの山あいから分けいでる清流、荒川の溪谷にあり、約二十数軒の旅館がある。吾妻の大自然の寛容さ故か、造られたというのではなく、自然の彩、山、川のあり様がごく自然に協調して佇を成している。』

遠く神代の時代、オオムナチノミコトが陸奥の国に下る時、ここに温泉があると荒川のはたりを鋒で突くと、こんこんと湯が湧いた、「突き湯」と名づけられ、それがやがて、「土湯」と呼ばれるようになった。その他、聖徳太子にまつわる伝説もあり、平安時代の末、吾妻鏡にも名高い霊湯ありと記されている。そして江戸時代には、豊富な湯量と数多くの種類の泉質に「土湯十楽、飯坂九楽」とうたわれて大いに栄えたと云う。

とにかくまずはお酒と肴、あびようと、皆で風呂場へ行く、ゆつくり温泉につかって、夜の宴を開く。初めに幹事より若干の組合連絡事項を皆さんに申し上げ、固い話は聞くもどかしくおさまりの乾杯となる。

そんな時、見学地より雄弁家の専務殿が、二人の社員を伴って我等の宴席へ現われて一党はびっくりした。「昼は何のお構いも出来ず失礼しました」とりんごと梨の詰合せの籠を十ヶもつて来てくれた。

宴会と云っても築地村の紳士連の宴席は、至つて静かで、穏やかな雰囲気が進められる。今回はカラオケデッキリもなく、コンパニオンも呼ばないので尚更である。十年前や二十年も前には芸者をまじえて大いに、どんちゃん騒ぎをしたのだが、近年は、昔より参加人数も減ったこともあり、深酒をする強の者が姿を消したことも大きな理由となると思われる。

宿のサービスは満点で、次から次へと料理が運ばれ食べ切れない程だ。大いに食べて、腹は

脹れ適当に酒にも酔って来た頃、宿のお姉さんが二次会用に、カラオケルームへどうぞと云うので、数人のメンバーが勇んでくり出した。飲み放題、食べ放題、歌い放題で、すべて宿の御配慮で無料サービス、皆思い思いの自慢の喉を披露して楽しい夜を過ごすことが出来た。

明けて旅の二日目は、ゴルフ組と観光組とにわかれた。

観光タクシーを宿の方で紹介してくれ、実に愛想の良い運転手氏の案内で、四人でゆつたりとしたワゴン車にのりこんで午前10時頃宿を出た。行く先は全て運転手氏におまかせである。

土湯トンネルを抜けて、土湯峠の茶屋で暫く休憩である。大根の煮つけ、漬物、羅漢果ジュース等で茶屋の主人が持成してくる。

茶屋の店先には、大きな石榴、栗、林檎、柿、梨、薩摩芋、馬鈴薯、長芋、じゃねんじよ、瓜、ピーマン、大根、人参、大葱、茸類等々、秋の味覚の皇族達が処せましと並べられていた。皆どれを手にとっても新鮮で、実にうまそうだ。眺めているだけでも何か清々しい感じにさせられる。自家用車で通りかかれば、いっぱい買い込むところだろう。

次に車は吾妻スカイラインへ向う、有料道路沿いのすずきが美しく風に靡いている。道が左右にくねくね曲り、アップダウンを重ねながらも上へ登って行く、やがて浄土平へ到着した。午前十一時半頃か、頂上の陽ざしは暖かく吹き抜ける風は涼味満点、実に心地良い気分だ。しばらく休憩所のベンチに腰掛け昼寝ときめこみ

たいところだ。

硫黄の強烈な臭いのする道を車はすべり降りて、車は高湯温泉方面へ向って行く。そしてフルーツラインを通り、四季の里、こけしの西田記念館を見物して午後二時頃に宿へ戻った。約四時間余りの車での遊覧であったが、久々に大自然を満喫することが出来た。

ゴルフ組はまだ帰って来ないようだ。部屋の窓をあけると心地よい風が入って来ている気分が少し昼寝をした。二日目の夕餉の宴までは時間がある、宿のロビーでコーヒーを飲みながら色々考える時間を過ごした。

昨日のキング印刷さんの見学で、今の自分の商売のありようと比較して色々な考えが、頭の中で交錯して行った。見学させていた大きさに参考になったが、さて自分はこれからどうするのか、何も新しいことが出来ないもどかしさがあつた。

近世の電話による通信手段の発達はめざましい。今や電話やFAXを使わずしては、どんな商売も成り立たないであろう。ここへ来て携帯電話が爆発的に普及して、一人が一台の電話器を持つて歩いているようなものだ。

そこで更にカラー画像も共に送れると云うインターネット通信の時代が幕開けした。あたかもラジオからテレビ全盛時代に入ったようなものか。これから産業界への影響は大であり、まさに革命的である。

しかし、天邪鬼な云い分になるかもしれないが、電話、FAX、Eメール等で果して人間の

感情が伝えられるのだろうか。二十一世紀は対話の時代だと云う人もいる。他人の目をみつけて話をしないと、本当の自分の気持が伝えられないのではないかと思つて来た。電話でお互いに対話することを超えて、機械同志が対話をしてくれるのがインターネット時代だと云う。

いかに科学文明が発達しても、それを操るのは人間なのだ、人間社会の中では一番大事なものは心のち方ではないのか。

戦後の野け野原——あの荒廃した日本国が経済的には飛躍の発展を遂げて来た。この小さな島国が世界が注目する経済大国となり、夢にも思わない飽食暖衣の時代となった。ひと昔前は、一粒の米も、もつたないと肝に銘じて、まして食べ残すことは誰も出来なかつた。近頃はかえって食べすぎて健康を害することになるので無理に全部食べるのはかえって良くないと云うことになつてゐる。

食べることに限らず過剰なまでに生産力を伸ばし、それをどんだん浪費し、又は捨ててゆく、ムダ使いをするのが美德と化する感じがする——そんなこんなでバブル経済が発展して行った。

しかし、予想外にそのつけが廻つて来た。バブル経済の破綻となり、なりふり構わぬ生産活動、金融活動がいつしかゴミの山を導きこの大事な地球環境——かけがいのない自然を容赦無く破滅している。社会の中では、金さえあれば殆んどの問題が解決されるような風潮、いつし

か生命の尊さが忘れ去られたのではないかと思ふような事件が多く発生しているのだ。

別の視点から見れば、戦後日本人の努力とあいまつて政府の経済政策は一応は成果を出せたのかもしれないが、教育政策は大失敗になつてゐると思えまいか。

人間の道とは何か、人間が自然と共生するとはどう云う点で大切なのか、と云つた人生の倫理感と云うか規範とされる基本理念を体験的に教えることはいつしか等閑にされて、唯知識の詰込み競争がエスカレートして行き教える方も親も、子供もとにかく良い成績を出して受験競争に勝つて、優良企業やお金が沢山とれる職業につくことが一番の幸せであると思つてしまつてゐる。

その結果はどうか、エゴ中心の人間が多くなつて来たのではなからうか。

弱肉強食の世の中だから、きれいごとは云つてられない、何としても勝たねば生き残れないのかも知れないが、経済人も、政治家も行政の官僚、いわゆる聖職者も結局はエゴイズムの魔の手に翻弄されているように思えてならない。

中坊弁護士が語つていたことを思い出す。「世の中で困つてゐる人を助けることが自己の人生の中での一つの生き甲斐だ、もしくは喜びを感じると云う社会ができない限り、日本国はいつか沈没する」と。

封建社会から民主主義国家へ変つたと云われて久しいが、果して今の日本国に真の民主主義があるのか。金融破綻で見せた、強者を守り、

弱者を切り捨てる、あの政府の対応。国民への奉仕を忘れた官僚たちの、「官尊民卑」の弊風、選挙の時は、国民が主権者だと云いながら、その実は、私利私欲を貪る、卑しい政治家達が現実存在する。

そして政治不信は増大する。政治家は名誉職なのか、責任職なのか。権力と結託し、捏造した報道で、人権も踏みじじる、厚顔無恥な一部マスコミ。更に云えば、医者と弁護士と宗教家と云われる人は、人の不幸を金にかえる商売だと云えまいか。しかし、そこには人道主義的なモラルがあるのか。しかも、世論調査では、約七割の人が「日本は悪い方向に向かつてゐる」と感じていながら、社会には、何を云つても変らない、仕方ないと云う無力感が漂つてゐる。

ここまで考えて来たが、では果して自分はどうなのか、残念乍ら、偉そうな事を云つていても、実行力も、勇気もない——誠にもつて情けないことである。いずれにしても、生ある限り、生きぬいてゆかねばならない。とにかく、コンピュータも勉強すべきである。ここ数年間、利幅のある仕事は減るばかり、食べていけるのが不思議なのが現状ではないか。

財産よりも健康が大事、更にそれよりも、豊かな心が人生の宝ではないか。

温泉気分から現実に戻れば、悪戦の日々は続くだろうが、微力でも人のためになれる人間であるべきだ、と思つたことだつた。

ひと風呂浴びて、二日目の宴を迎えた、この日の観光組の珍道中、ゴルフ組の珍プレーと、

色々な話題は尽きず、楽しい宴席となった。同じ宿の二度目の夕膳で、昨日と同じものが出れば興ざめだと思っていたが、果して出された料理は趣向が変つて、満足出来るものだった。どちら様も皆お疲れの御様子か、早めに宴は終つて、早めに御就寝とは相なつた。

二泊三日の楽しい旅行会は無事終つた。それにしても、大自然の力は素晴らしいと思つた。人の疲れも治す、温かい湯が毎日湧いて出て来る——この自然の力の不思議さよ。来秋も又、大自然の力を満喫出来て、良い思い出となる旅行会にしたいと思いつつ帰京した。

尚、今回訪ねた土湯温泉郷は福島駅より、車で四十分位のところにある。路線バスもある様だが、日に何本も運行していないので、鉄道沿線にあり便が良いという訳ではない。

しかしこののどかな山村ならではの、面白い話があつた。宿の売店で地酒でも買おうかとも思つたが、売店に酒類が探し当らない。売店の前に聞いてみると、何とも人情味ある返事が返つてきた。宿の前には古くから酒を売る店があり、宿で売つては目の前の酒屋さんに悪いので、酒はおいてない、お酒をみやげにと云う方はどうぞこの旅館の前の酒店で購入して欲しいと云うのだ。共存共栄の気持ちなのか、何ともうるわしい話だと思つた。



平成11年10月1日 土湯温泉旅館 向瀧にて

## 雑感

月島地区

ご存知のとおり当地区では、月島を中心に佃・勝どき・豊海・晴海と、新しい街の整備が活発に行われている。清澄通りを始め、本年中開通予定の地下鉄12号線、中高・超高層の店舗併用住宅等である。日々進行の状況を眺めていると、あつと言つ間に更地空間が出現し、瞬間に基礎工事が着工する。いったいそこに何の建物が存在したのかさえ、思い出す事が難しい程のスピードで街並みが変わ化する。その風景は昔見た映画のシーンのようだ。

Ｌ・マイルストーン監督、ロングパン・機銃掃射シーン、やがて訪れた一時の静寂、一兵卒のポールが、地を這うように飛ぶ一羽の蝶に触れようと塹壕から身を乗り出す。空気を劈く一発、その日の報告書・本日、「西部戦線異常ナシ」

今、我々を取り巻く環境は公私共に更なる激動に突入した。2000年を通り越し21世紀を目前にしてなする事は何か問われる。業界分野の垣根はとつくの昔に取り払われ、あらゆる方面に情報が開示されて、新技術の開発・発展をみたが、このままでいいのか甚だ疑問である。より速く・より便利に・より確実に・立派な発想原理である。しかし、この時代だからこそ物作りの原点に帰り、更なる「感性」の研磨

修練の必要を感じる、幸いにしてたくさんの分野で活躍している仲間・友人がいる。彼等との交遊を通じて得られたものは計り知れない。この後得られるものも無尽蔵と思われるこの資源を大切に生かしたいと考える今日この頃である。

伊兵衛・たよが厳しい時の登りをおえて、眼前の小浦の美しい風景に見入る。

「やあ、これはすばらしい、なんて美しい眺めだろう」

「まあ本当、本当にきれいなこと」

「身体じゅうが勇みたちますね。」

山本周五郎：「おごそかな渴き」

映画：「雨あがる」ヨリ

鎮目 悠三



## 支部の動き

11月4日(木)本部支部長会(15時10分)於・本部会議室 水野支部長出席

11月9日(火)部長・監査・地区長会(18時)於・富士通築地クラブ

。支部長会報告事項

。各種委員会報告事項

。共済キャンペーン途中報告

。顧問・相談役・参与の会の開催について

。その他

。懇親会(18時30分) 会費1万円

11月16日(火)次期役員選考委員会(11時～13時)

於・支部会議室、

石澤顧問・小葉顧問・小山顧問・田島顧問・篠倉顧問・神林相談役・荒川相談役・

十文字相談役・水野支部長・花崎副支部

長・小倉地区長以上11名出席

11月18日(木)本部署理事会(15時)於・健保会館

水野支部長他出席

11月30日(火)第2回次期役員選考委員会(時)13

時)於・支部会議室

石澤顧問・小葉顧問・小山顧問・田島顧問

・篠倉顧問・神林相談役・荒川相談役・十

文字相談役・水野支部長・花崎副支部長・

小倉地区長以上11出席

12月2日(木)本部支部長会(15時10分)於・本

部会議室 水野支部長出席

12月7日(木)顧問・相談役・参与の会開催(17時

～19時)於・銀座ファイナート

。今後の支部事業について

。ハイテク技能センターについて

。その他

会費 7千円

12月9日(木)部長・監査・地区長会(11時～14時)

於・支部会議室

。「中小企業経営革新支援法」の申請・適

用・承認の実情について

―(株)大成美術印刷所・寺田博司氏に聴く

。本部支部長会報告事項

。各種委員会報告事項

。その他の事項

12月27日第3回次期役員選考委員会(12時～13

時)於・支部会議室

石澤顧問・小山顧問・神林相談役・荒川相

談役・十文字相談役・小倉地区長・次期支

部長候補内定の松川印刷松川社長

以上7名出席

1月7日(金)中央区工団連新年初顔合わせ会(18

時)於・中央会館6階

水野支部長他出席

1月17日(月)部長・監査・地区長会(11時～14時)

於・支部会議室

。新年臨時総会、当日の役割について

。「DTP積算体系及び受発注者間ルール」

研修会について

。2月25～26日実施予定の部長・監査・地

区長会を兼ねた工場見学会について

。京橋の印刷」105号の発行について  
。その他

1月18日(火)組合設立50周年記念式典・「新春のつどい」於・ホテルオークラ

◆記念式典(16時)『別館桃山』

◆新春のつどい(17時30分)『本館平安』

支部組合員参加 59名

支部京青会等参加11名

1月21日(金)東印工組日本橋支部新年会(18時)

於・ロイヤルパークホテル

水野支部長出席

1月22日(土)東印工組墨東支部50周年記念・新年会(17時)於・東京平安閣

石澤副支部長代理出席

1月24日(月)中央厚生事業共同組合新年懇親会(18時)於・三笠会館 東銀座店

水野支部長出席

2月4日(金)部長・監査・地区長会(16時)於・銀座ラフィナート

。支部長会報告事項

。DTP積算体系及び受発注者間ルール」研修会について

。「コニカ小田原事業場」見学会について

。各地区、次期役員候補選出状況について

。5月支部通常総会開催日時について

2月4日(金)支部・新年臨時総会開催(17時)於・銀座ラフィナート

司会

。開会のことば

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。議 事

次期役員推薦委員会

経過報告 推薦委員長 石澤 幸殿

その他

。来賓紹介

東印工組常務理事

東印工組常務理事

中 央 区 長

中央区工団連会長

東京印刷工業厚生

年金基金理事長

東印組日本橋支部支部長

中央区民部商工課長

東製工組京橋支部長

中央厚生事業協同組合

理事長

。来賓挨拶

。開会のことば

。進行

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。挨拶

。中 締

東印工組常務理事 十文字康雄殿

。会費

組合員 1万円

関 連 15万円

2月15日(火)「DTP積算体系及び受発注者間ルール」研修会(18時)於・労働スクエア東京

(京橋支部・日本橋支部、合同開催)

。会費1名につき3千円

2月18日(金)中央区中小企業商工業関係者表彰式(16時)於・中央会館

水野支部長出席

2月21日(月)支部ホームページ表紙画像改訂(案)の検討会(11時)於・支部会議室

執行部役員、(株)久栄社出席

2月25日(金)支部長・監査・地区長会及び工場見学会、会費1.5万円

(工場見学)コニカ小田原事業場)

(部長・監査・地区長会)熱海・石亭

。支部長会報告事項

。5月支部通常総会開催について

。各地区、次期役員候補選出状況について

。その他

2月28日(月)00中央区産業文化展第1回実行委員会開催(10時30分)於・中央会館階

水野支部長他出席

3月14日(火)部長・監査会(11時)於・支部会議室

議室

。平成11年度事業報告書の作成について

。平成12年度事業計画の作成について  
。平成11年度会計経過報告について

3月24日(金)「E・ビジネス対応の印刷」勉強  
会(18時-)於・ミズノプリテック(株)6階  
ホール

講師(有)羽生印刷・羽生社長他同社スタッ  
フ、ハイデルベルグ・ジャパン・スタッ  
フ  
— 会費1名につき2千円 —  
参加者68名

支部員の異動

・脱退組合員

。(株)アンザイ、安西定治氏(月島地区)  
2月

。(株)あーと・そうご、石塚英気氏  
(湊地区) 2月

・所在地変更

。永和堂(株)(築地地区)は、江東区佐賀

1-10-2へ移転しました。

TEL 五六三九〇四〇〇

FAX 五六三九〇四〇三

。(株)蓬萊屋印刷所(湊地区)は、中央区

湊3-2-9-203(メロデイハイム銀

座東)へ移転しました。

。(株)美山堂(月島地区)は、中央区勝ど

き3-3-18へ平成13年4月30日迄の予

定で仮移転しました。

慶事

○正栄堂印刷(銀座地区) 山中孝夫殿  
長男御結婚(3月)

お悔やみ申し上げます

▼銀座地区

(有)三青社社長

竹内喜夫殿逝去(12月)

▼築地地区

(株)渡辺印刷所社長(ご令聞

渡辺葉子殿逝去(12月)

▼湊地区

湊印刷所社長

山本 茂殿逝去(2月)

編集後記

3月9日付、一斉同報FAXでお知らせいた  
しました「京橋支部ホームページの改訂」では  
改訂内容に説明不足がありましたので、補足い  
たします。

①(メインページのデザインの新)では、  
今回、紙の流れる印刷機の中のローラーをフ  
ラッシュ動画にしてあり一般の方、同業の方ど  
なたがご覧になっても「印刷関係」ということ  
が一目瞭然であり大変楽しいものになっており  
ます。未だ、アクセスされていない方は是非ご  
覧ください。

②メインページでの内容案内は

京橋支部概要

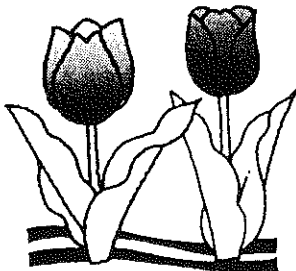
中央区の紹介

百年前の東京・日本

ご意見・ご要望

の四タイトルになっておりますが、特に四番目  
の「ご意見・ご要望」を利用されて、京橋支部  
ホームページの質をよりよくするため、お気軽  
にご意見等お寄せ下さい。

③最近自社ホームページを立ち上げ、「支部  
ホームページからのリンク」がされていない組  
合員がございましたら、②の「ご意見・ご要望」  
よりHPアドレスをお寄せ下さい。  
(横田)



# 京橋支部のホームページがリニューアルしました。

- 1) メインページを始めタイトルページのデザインを一新しました。
- 2) アドレスに独自ドメインネームを取得しました。

実際のホームページは印刷機のオブジェが動きます。是非アクセスして確かめて下さい。

新アドレス <http://www.kyobashi-shibu.org>

新 E-mail [info@kyobashi-shibu.org](mailto:info@kyobashi-shibu.org)

